

ほ
おこ
掘り
熾す



北仙道の香りが恋しくなったら、
是非またこの冊子を開いてください。
北仙道で、お待ちしております。



▲北仙道 MAP QR コード

益田市北仙道地区パンフレット vol.3
発行：北仙道の明日をつくる会



これはまるで季節風が吹いてきたかのように、
ふわっとワクワクが香るような、
益田市・北仙道地区の備忘録。

益田市が過疎という言葉の発祥地でありながら、
今では北仙道にもUターン者が集っている。
北仙道の何が、人々を惹きつけるのか。

この地にずっと以前から住み続ける「北仙道びと」と、
そこに足を踏み入れた「Uターン者」が交わり、
その出会いから生まれる対話で、
ふるさとの魅力は掘り熾されます。

力強く伸びる竹のように、
瑞々しく香る筍のように、
しなやかに張り巡り豊かな未来を彷彿とさせる、
北仙道の人々のつながり、縁結び。

掘り熾された4つの対談を、
是非ご覧ください。



対談者紹介

01

はだ あつお
波田篤男 さん



自然豊かな北仙道に生まれ育ち、遊びの中からさまざまなことを学んできた古き良き時代から現在にかけて地域・子どもの変化を見つめている。子どもから大人、高齢者まで楽しめる「遊び」の発明者。

たなか あつひさ
田中淳央 さん



建築士として働く傍ら、竹灯籠の制作を通して、地域の可能性にスポットライトを当てる活動に奔走している広島出身の若きUターン者。たまたま一目惚れした北仙道地区の空き家を通じて、地域との関わりしろや興味を開拓してきた。

02

はだ やすえ
波田恭江 さん



山口県の高専を卒業後、生まれ育った北仙道にUターン。今は3人の子どもの育てる先輩ママ。北仙道の体育館で行われているソフトバレーの練習で毎週汗を流しながら、若いママの相談相手にもなっている。

ひがき みな
檜垣美奈 さん



岡山県北部の山間で育ち、2019年に結婚を機に益田に移住。北仙道地区の地域魅力化応援隊員として地域活動に参加してきた。現在は、故郷に似た北仙道で子育て中。

03

たむら こ
田村たづ子 さん



益田市出身。結婚を機に北仙道へ移住。幼い頃から舞台芸能を経験し、北仙道に伝わる田植えばやしに関わってきた。着物の着付けを担当していたが、のちに演奏や指導も行うようになった。

みやけ のぞみ
三宅望実 さん



北仙道で生まれ育ち、親の影響で物心つく頃から田植えばやしに関わってきた。Uターン後は、地域魅力化応援隊員として地域づくりに携わり、自分の楽しみとして田植えばやしにも裏方として関わり続けている。

04

はだ としひろ
波田敏博 さん



北仙道に生まれ、専門学校を卒業後、家を継ぐため北仙道にUターン。齒科技工士として35年間務めた後、2015年から北仙道公民館館長として、人脈の広さを生かしながら地区内の活動に取り組んでいる。

ひがき けんいち
檜垣賢一 さん



山口県出身で2016年に北仙道に移住。現在妻と長女の3人暮らし。波田館長との関わりによって、地域に溶け込んでいくようになる。現在「一般社団法人豊かな暮らしラボラトリー」の代表理事。

01

地域をフィールドにすること



波田篤男さん×田中淳央さん

自分ができることって？ もらった関わりしるを、作っていく

淳央さん I ターンの僕が北仙道とグッと距離が縮まったのは、物置になっていた公民館の一室をみんなが集える場所にリノベーションする際、「設計してみる？」と声かけをいただいた時のことでした。最終的には地域住民の一人として迎え入れてもらえただけでなく、自治組織のメンバーになってプロジェクトを提案したりするようになって、地域で動く意味をもらえた気がしました。

篤男さん そうなんだね。
僕が子どもや高齢者と一緒にするレクリエーション活動で大切にしているのは、『学び』の要素。遊びと学びが一体となっていた状態を取り戻すために、『主体性』を大切に、体験させるような遊びだったり、子どもに班長をさせたり。大人側がちょっと手を放すことで、子どもたちは役割を与えられて、みんな楽しくなったりする。

淳央さん すごく分かります！僕の活動でも、ゴールに至るまでの過程で、自分を含めてみんなが楽しくできると、『今度は自分たちだけでやってみよう！』につながるんだな、と。そのことに気づいてからは、意識的に自分は指示する側に回るようにしてます。そうすると自分も楽になるし、単純に楽しいですよ。

篤男さん 本当に自分が楽しいと思えることは続けられるし、それが一番だね。

淳央さん 篤男さん自作のボードゲームで遊んでみて、子どもでも大人でも楽しい遊びっていくらでも作れるんだな、と感動しました。

楽しい遊びから生まれる関係性や学び

淳央さん 僕は、仕事ではない活動には、楽しむことプラスアルファで、頼ってもらえるということが原動力になっています。

篤男さん 今と違ってこの地域では人間関係においても、あまり『よそ』とかいう意識がなくてね。だから僕が大人になって、子どもたちと関わるようになってから、何かがあったらこの子どもでも叱っているんだよね。でも、最近はこの地域でも薄くなっているかなと思う。

淳央さん なるほど。
でも、こっちに来て子どもたちとすれ違う時に「帰りましたー」って声をかけてくれる文化にびっくりしましたよ。北仙道では、自分が歩み寄るまでもなく自然と距離が近くなる風土がありますよね。
こういったところを残しつつ、生活に近いところで体感値で学ぶ遊びをもう一度作ってみたいです。





檜垣美奈さん×波田恭江さん

出産後、 「人と話さない日がないから、ありがたい」

美奈さん 子どもが生まれると、2人での時間が長くなりノイローゼになっちゃったりって聞くんじゃないですか。でも、ここではちょくちょく地域の方が家まで見に来てくれたり、色々なプレゼントや使わなくなったものをいただいたり。他人でもこんなにもらえるんだってびっくり。すごく嬉しかったです。

恭江さん それはすごいね～！北仙道の人は結構気にしてくれるんじゃないね。
私の娘もよく美奈さんの家に遊びに行ってたって聞いてるんだけど、小さい子を見るのが好きな人も多いから、子どもも地域で見守られて育つんじゃないかな（笑）

美奈さん はじめて北仙道の皆さんにお会いしたのは、引っ越す前の

ウォーキングイベントだったんですが、地域の子どもたちが話しかけに来てくれたのが印象的でした。
人との距離が近い感じもするし、温かいし、人も優しいし、ここなら暮らしやすいし、みんなにたくさん愛されながら子どもが育ってくれるだろうなって思いました。抵抗は全然なかったです。

恭江さん そうそう、自分の子どもや孫じゃなくても叱ってくれる地域のおじちゃん、おばちゃんがおるしね。やっぱり親だということを聞かなかったりするから…そうやって家庭外でも見てくれる人があるのは、本当に心強いね。



少子化地域での助け合い

恭江さん でも不安に思ったりすることはない？

美奈さん 家の近くに公園がないので、外で遊ぶにしてもどこで遊ばせたらいいとか、そういった些細なことが分からなかったりします（笑）。そういう時に気軽に相談できるような人が身近なところにいたらいいなあと思います。それに、娘にとっても一緒に遊ぶお友達ができるかなということも不安ですね。

恭江さん 私は昔自分が通ってた北仙道保育所に子ども達を通わせただけど、当時と環境が違うなと感じるかな。どうしても北仙道に子どもが少なくなってきているから、親同士のつながりが最初はつくりづらいよね。そのうち頼れたりするんだけど。

美奈さん そうなんです。だから今は、公民館にお邪魔して色々聞いたりしています。でも、地区外にも同い年の赤ちゃんがいる！ターン仲間もいるので、ちょっと安心かな。そうやって、初めてでわからない事を共有したり、一緒に遊んだりしているので、地域でもつながりができたらいいなあと思います。



▲地域の方に遊んでもらう美奈さんの長女

03 地域を代表する田植えばやし



田村たづ子さん×三宅望実さん

『北仙道田植えばやし』とは

明治時代後期に広島県から北仙道赤雁地区に伝わってきた。1970年代に北仙道地区全体で行うようになり、その後保存会を立ち上げ活動してきた。北仙道田植えばやしは『苗取りばやし』といって、田植え前に苗代の苗を小分けして植えるところに投げている様子を表す踊りで、6調子の優美なテンポ。

子どもからおじいちゃん、おばあちゃんまで

望実さん 子どもの頃の田植えばやしといえば、練習から本番まで皆で集まってやったりするのがただただ楽しかった記憶しかないですね。すごく楽しそうにしている大人の姿があったのも大きいかも。その頃からたづ子さんにはお世話になっていて、大人になって地元に戻ってきた時も、当時と変わらず現役で指導されていることにびっくりしました！

たづ子さん 「そうよね、子どもたちにしてみれば、着物を着れるし、トラックには乗れるし、お菓子も食べられるし。楽しそうにしている子どもたちの姿が、親御さんたちも嬉しかったみたい。

地域の多くの子どもたちがその楽しさを体験していると思うよ。私が嫁いできた当初は、故郷と比べて時間がゆっくり流れる田舎だなと思ってたけど、田植えばやしをするようになって、着物や道具を直したり、子どもと関わることも増えて…忙しかったけど、いつの間にか日常の一部になってたよ。今振り返れば、楽しかったね。もちろん着物や道具を直すのが大変で、忙しくもなっていくんだけど、それも含めて、いつの間にか日常の一部になったかな。

望実さん 確かに、本番前4、5日くらいかけて大人たちが道具を作ったり直したりしていた記憶があります。たづ子さんは、そういうこともやりつつ、子どもたちへの指導にもすごく熱心にされていました。楽しく本気でやっている地域の大人たちが見守って関わってくれることで、地域全体が家族のように思えるようになりました。

次世代に繋げるためには

望実さん ただ、あれから数十年が経った今、田植えばやしもどんどん担い手が少なくなっている中で高齢化も進み、途絶えてしまうのではないかという不安を感じています。なので教えてもらえるうちに教えてもらって、次世代に伝えていきたいと思いました。

たづ子さん そうそう、人も物も昔と同じじゃないのよ。だから望実さんに着物の着付けだけでなく、道具の直し方とか、使わなくなったものをリユースすることとかも覚えて欲しいな。

望実さん 歴史ある田植えばやしには道具や衣装一つにしても昔の人の知恵や技術がつまってるんですね。次世代に繋げるということは踊ることだけではなくて、そういった目立ちにくいところも含めて今のうちに覚えていかないといけないと思います。私がこうして伝えていきたいと思うのは、やっぱり私自身が子どもの時に心から楽しさを体験したからこそ、今の子どもたちにも体験して楽しさを知ってほしいなと思っています。



▲北仙道田植えばやしのようす

04 北仙道という“ところ”



樽垣賢一さん×波田敏博さん

地域に溶け込んだきっかけ

賢一さん 当時の上司の紹介がきっかけで北仙道の空き家に住むことになり、その近所に住む館長が声をかけてくれて交流が広がりましたね。

波田館長 ごみ出しとか集金常会とかいろいろなルールを教えたよね。それから周りの皆もかわいがってくれるようになったんだ。

賢一さん 僕が風邪をひいた時にご飯を持ってきてくれたり本当に地域の皆さんがよくしてくれて、嬉しかったですね。2年目に家を出ないといけなくなった時も、地域の皆さんが地区内の別の家を探してくれて、今でもその家で暮らしています。

その頃地域では地域自治組織の設立に向けて動いている時で、僕もコーディネーターを任せてもらえることになり、その時地域の人と一緒にやり遂げたいと思ったんです。

波田館長 地域に新しい風を吹き込んだような感じだったよ。

北仙道の魅力と課題

賢一さん 今まで活動を行ってきた世代の人たちが次世代につないでほしいという気持ちを強く持っておられるから、僕たちが何かをやろうとした時もなんでも挑戦させてくれて、全力で応援してくれる。だから若い人もチャレンジしやすいんじゃないかなあ〜。田植ばやしもそのひとつですよ。

波田館長 そうそう。地域にはこれからを担ってくれる人たちがいるから、お互いに協力しながら発展していけばいいよね。ただ、課題もたくさんあって、、、
例えば各家庭の後継者問題が心配だね。空き家がどんどん増えていくのが目に見えているから、そのことにどう向き合っていくかが課題だね。

どんな北仙道にしていきたいか

賢一さん 若い世代をどんどん巻き込んで楽しく何かしていきたいなあ。楽しい時間を皆で共有していけたらいいですね。

波田館長 これからは若い人に力を発揮してもらい、年上の方はサポートに回って地域の活性を進めてほしいと思う。北仙道は個性的な人が多く、人間関係がおもしろい。自分はいろんな人を知っていることもあるから、そこに野次馬的な感じで関わっていて、それを活かして行けたらいいなとは思っている。

時代が変わる中でどうやって地域を守っていくかを考えると、地域の人たち自身が伝統と郷土を愛し、人とのつながりを大切にして、北仙道らしさをつくっていききたいね。



▲地域行事に参加する賢一さん